

会員数(55・1月現在)

逗子地区 144名

葉山地区 210名

大船地区 59名

合計 413名

# 吟道月報

日本詩吟学院岳風会 認可  
神奈川 碩心会 発行

55・1月号

第90号

発行者 根岸 岳 萃  
編集 中村 愛 風  
秋 元 梁 風

## 年頭の辞

名誉会長

松 井 岳 洋

一九八〇年の初陽は、煌然と輝きわたり、吾等の心に、新たなる息吹と決意を、よみがえさせる。

碩心会吟友各位が、ご健祥で新年を迎えられました事、まず以て心からなるご祝詞を申し上げます。

昨年師走中は、祖宗範の墓所脇に、吟魂碑が建立され、まずオー

に、岳風先生の入魂の儀が厳粛に挙行された。

岳風流統研鑽途上惜しくも逝かれた全国同志の吟魂、このところに凝結し、吾等が正しい吟道の行

手を、導いてくれることであろう。

年と共に不安定な経済、社会の情勢、今年の世相はなかなか樂觀

出来ぬきびしさを感じます。

この様な時にこそ、お互が、一

大和合し、吟道精神を以て、如何なる時にも対処出来る気迫を養うことが、眞の、高度の趣味として、豊かな人生を築くために、選んだ道ではないでしょうか。

私は碩心会の会名を選ぶに当り、吟道を通して、日日聖賢の教えに触れ、これを自己の修養の糧として、各自が立派な人格者と成らんことを目途に、当時、今はこゝ大野孤山先生の賛同を得て、命名しました。

幸にして、吟友各位のご熱意とご協力により、会長根岸先生を中心に和の団結を以て、今日の発展を見るに至り欣快に耐えません。

年頭に当り、更に自己の吟道研鑽にきびしきを期すると共に、各位のご健祥ご発展を祈ってやみません。

ごあいさつ

会長 根岸岳萃

皆さん明けましておめでとうございませう。  
碩心会は吟界の発展におくれることなく漸次  
発展して本年の高役者の受審者数は県本部の  
約一〇%と、層も益々充実してきましたこと  
は同慶の至りです。これも皆さんの弛まぬご  
努力と益に対するご協力の賜であります。イ  
ランの紛争に端を發した石油の値上り、公共  
料金の値上り等々と、今年も経済的に恵まれ  
た年でもなさをとつてですが、このような時にこ  
と吟を通じて楽しく、たくましくすごされま  
すことを祈念致しまして年頭のごあいさつと  
致します。本年もよろしく。

新年の挨拶

相談役 加藤秀岳

新年おめでとつございます。  
今年もこの紙上にて会員並びに御家族の皆  
様に新年の御挨拶ができる事をこの上もない  
慶びと致しております。

皆さんが吟道を通じて得た心の豊かさを以つ  
て和と協力により昨年以上の碩心会の発展の

ために御努力される事をお願い致します。

私も昨年勤務を定年退職しましたので今年か  
らは初心に立返り自他共に楽しんで吟の向  
上に研鑽つもりでおります。

皆様の御多幸を祈念致しまして新年のご挨拶と致します。

年頭の辞

相談役 三井雲岳

今年もまた精一パイ吟じ詠じ度いと念願す  
るものであります。医学博士式場隆三郎先生  
のご説によれば「無心になると、詩に陶醉す  
る或は無我の境に入ると、血は頭から下り、  
下腹部にたまることで、下腹部に力を入れる  
とその血は心臓に送りこまれる。かくして血  
行がよくなり健康につながる。それで下腹部  
がオニの心臓と呼ばれるのである」と、即ち  
一杯吟詠することが下腹部に力を入れるこ  
とにつながるひいては健康によいと言はれる  
のである。

腹から声が出るように今年も皆様共々力一  
杯吟詠に打ち込もうてはありませんか。

年頭雑感

常任理事 竹石憲吉  
総務部長

一日一吟一日五分位の朗吟すらも実行は難  
しいものです。今年は石油事情は逼迫し、物  
価は高騰の様子を見せております。会員一同  
毎朝一吟を励行して、身心を練磨し、暮し難  
い一年を無事に過ごされるよう提唱いたしま  
す。

常任理事 千葉劔風  
迫子地区長

新年おめでとうございます。  
劔風です。本年もどうぞよろしく。劔風では  
ありませんので、本年は劔の字でよろしく。  
ところで何年ぶりのテスト、やはり緊張  
ですね。一詩千吟……とてもとてもです。  
起きても寝ても眠っていても、吟じてこそ  
はじめて、できるのかも……しかし、真剣に  
これを行えば数の問題の前に、いわゆる詩の  
心なるものがつかめそう……そんな気がしま  
す。「漫然と吟じる千吟よりも」といつかつ

に解して下さい。

常任理事 千葉香風  
会計部長

明けましておめでとうございます。  
皆様の大切な会費をお預りしてから、もう何  
年になるでしょうか。

毎年会計帳簿を見ては、碩心会も伸びている  
なあと数字の上から色々考えさせられることが  
多いですね。大きくなり交際もひろくなった  
最近の碩心会の台所は楽ではありません。  
今後いろいろな御協力を頂く事が多いと存じ  
ます。その節はどうぞよろしく。

常任理事 中村愛風  
広報部長

年の始めに当って皆様もきつと何らかの決  
意をお持ちになられることと思えますが、私  
は初心にかえり吟じこむという言葉を中心に誓  
いたいと思います。このこむという言葉は吟

道のみでなくすべての道に通ずると思ひます。  
魯の甲より年の功、年輪とか人生觀にも同じ  
ような言葉がありますがつなずけるのです。

### 愚詠

常任理事  
松坂副社長  
秋元梁風

一 昨年は病斗の年であつた。  
昨年は自重の年であり、そして新しい年を迎  
え体調いよいよです。

みきくめるからだとなりて初春の  
門松の色さえて目にしむ

新しい年を迎え新しい気持ちで、この道に旅  
れましよう。

追いつかれ追い越されてもひたすらに  
旅する己がわらじあたらし



秋元梁風  
十等七回

新春を迎えて

常任理事  
兼山形市長

沼田洗岳

謹んで昭和五十五年の新春をお祝い申し  
上げます。会員の皆様には益々御清栄のこと  
とお喜び申し上げます。五十四年度は皆様も  
御存じの石油問題又省エネルギー悪情勢下に  
終始致しました資源の少い無い国の弱さを感  
じさせられました。薄暗い私共の日常生活の  
反面吟道精神を鍛練し生き甲斐を求めて皆様  
と共に和の道をたづさえて参られますことを  
喜び。本年も元気に朗らかに進んでゆきたい  
と思ひます。

吟道を憶う

常任理事  
大船地区長

下条亮岳

皆さま。新年おめでとうございませう。昭和  
五五年いわゆる一九八〇年代に足跡して。生  
きて。生ける。すべての夫々と。生けて。い  
ちばん親しみある。頑心会の皆さまと共に。希望  
あるこの新年をおよる。こむ。申上げます。昭  
和二〇年を前後の悲惨な戦禍の苦難を経  
て。建国の史上に例のない現時代を築いたこ  
とは。伝説ある。単一民族に享け継がれ。力を

の結晶と云えませう

一九七八年（昭和五三年八月）に日中の平

和条約が久しき待望のうち締結せられた。面  
面は同一の象形文字を母体として漢詩漢文  
を通じ文化の交流には。詩経にさかのぼる長  
い歴史があります。いま私たちは。先哲が混  
然一体として日本文化の原流をなした。かも  
永遠の生命をもつ漢詩を朗唱しながら詩情と  
心身鍛練することは。より明るい時代を築く  
うえに大きく役立つと信じて止みません。年  
改まったこの時を期して。情勢の限り。皆さ  
まとともにこの道にはげみたいと思ひます。

年頭の挨拶

常任理事  
会計監督

井沢潮岳

勤賀新年

常任理事

井沢潮岳

新春を迎え平素の御厚情を深謝し併せて皆々  
様の御多幸を御祈り申し上げます。本年も  
本年も楽しく吟道にはげまじよう。新年あけ  
ましておめでとうございませう。一九六〇年  
は繁栄の時代。一九七〇年は国際

常任理事  
事務部長

小峰桜岳

化の時代、一九八〇年はエネルギー時代で全人類に課せられた責務であると思ひます。この大きな潮の流れの中にあつて吟道にレタレしみ、往く年を惜しみ来る年を告げる除夜の鐘を聞く度に一年が早い、早いとぐちをこぼす其の足元から、時は遠慮することなく走り去つて行く、時の尊さを痛感し今日も生涯の一日である、それぞれの生活の中で今を「今日」を大切に於て週一度の吟の練習日は出席したいものです。

新年に當つて

常任理事  
企画部長 加藤圭岳

すがすがしい八〇年代の幕あけを迎え、謹んで新年のお祝詞を申しあげます。

又この一年を頑心念の同志の皆様と共に、吟道に精進、切磋琢磨していきたいと思ひます。高格な吟詠は単に技術だけで生まれるものではないと思ひます、あらゆる面で自己を育てることに不断の努力が肝要であつて、心と技、相成を念頭において、行き止まりのない吟の道をとどまることなく歩み続けること

これ以外に目的達成の道はないものと信じ、吟道に支えられた我が人生を同志と共に歩み続けたいと思ふ次第です。

常任理事  
許証部長 中村幸風

人工衛星が地球の周囲を駆けめぐり、ミサイルが在来の戦争方式を否定し、科学が人生を圧迫する時代になつても、さすが新年はおめでたいものと屠蘇を祝う気になるのは不思議です。楢山とやらへの距離も歩一歩近づき寄る年波？ を迎えてかりにもおめでたいとは平盾至極ですがおめでとつといわざるをえないしきたりにほろにがさを感じます。

一九八〇年どの様に時代が変り生活環境に変化が起りましてもせめて生命だけは永遠に健康でありたいと思ひます。その為には努力も必要でありませう。健康の為めに……今年も大いに吟じたいものです。同時に限られたラツレみの間、末長くご指導とご交誼を賜りたく年頭に際し心からお願ひする次第です。

計報 蒲谷蒼岳先生が一月一日逝去されました。  
謹んでお悔み申し上げます。